

## △使用上の注意



### してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

#### 1. 次の人は使用しないでください

- (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 抗生物質又は副腎皮質ホルモンによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

#### 2. 次の部位には使用しないでください

- (1) 水痘（水ぼうそう）、みずむし・たむし等のある患部。

- (2) 湿潤やただれのひどい患部。

- (3) 深い傷やひどいやけどの患部。

- (4) 目や目の周囲。

#### 3. 顔面には、広範囲に使用しないでください

#### 4. 化粧用やひげそり後用として使用しないでください

#### 5. 長期連用しないでください

共通事項解説〔1〕参照

本剤は、副腎皮質ホルモンを含有する外用剤であるため、免疫抑制作用により、生体の感染防止機能が低下し、細菌、真菌などによる皮膚感染症を増悪させることがあるので、水痘（水ぼうそう）、みずむし・たむし等のある患部には使用できません。

患部の湿潤やただれのひどい場合には、刺激が強く、痛みやはれなどがあらわれることがあり、自己治療の範囲を超えている場合も多いため、これらの部位への使用はできません。

深い傷やひどいやけどがある場合には、自己治療の範囲を超えている場合が多く、これらの部位への使用はできません。

目や目の周囲は敏感であり、痛みやはれなどがあらわれることがあるため、これらの部位への使用はできません。本剤は眼軟膏（無菌製剤）ではありません。

本剤は、副腎皮質ホルモンを含有する外用剤であるため、限られた範囲に慎重に使用することが必要です。

本剤は、症状が出た時に使用する対症療法薬で、効能外に漫然と使用するものではありません。

特に抗生物質と副腎皮質ホルモンを含有する製剤であるため、効能にある疾患に対して、慎重に使用する必要があります。

本剤は、症状が出た時に使用する対症療法薬で、長期に使用するものではありません。

本剤は、抗生物質を含有する外用剤なので、耐性菌の発現等を防ぐため、治療上必要な最小限の期間の使用にとどめることが必要です。

また、本剤は、副腎皮質ホルモンを含有する外用剤であるため、長期連用すると、皮膚の感染症、ステロイドざ瘡、ステロイド皮膚、魚鱗癬様皮膚変化、紫斑、多毛、色素脱失などがあらわれることがあります。

ステロイドざ瘡：尋常性ざ瘡（にきび）に似ているが、白色面皰が多発する特徴がある。

ステロイド皮膚：皮膚萎縮、毛細血管拡張。

魚鱗癬様皮膚変化：皮膚が乾燥して、表面に過剰の鱗屑（表皮角質層の角質細胞が脱落しそうな状態）がうろこ状に付着した乾皮症の状態。



**相談すること**

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

- (1) 医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 授乳中の人。
- (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (5) 患部が広範囲の人。
- (6) 小児。

2. 使用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
皮膚（患部）	みずむし・たむし等の白癬症、にきび、化膿症状、持続的な刺激感

3. 5～6日間使用しても症状がよくならない場合は使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

**<用法・用量に関連する注意>**

- (1) 用法・用量を厳守してください。
- (2) 小児に使用させる場合には、保護者の指導監督のもとに使用させてください。
- (3) 目に入らないよう注意してください。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗ってください。なお、症状が重い場合には、眼科医の診療を受けてください。
- (4) 外用にのみ使用してください。
- (5) この医薬品を塗布後、患部をラップフィルム等の通気性の悪いものでおおわないでください。

共通事項解説〔3〕参照

共通事項解説〔4〕参照

授乳婦が胸まわりのあせもなどに使用した場合、授乳時に乳児が摂取する可能性があります。本剤は、副腎皮質ホルモンを含有する外用剤であるため、授乳中の人には、使用前に、医師、薬剤師または登録販売者に相談する必要があります。

共通事項解説〔5〕参照

患部が広範囲の場合、自己治療の範囲を超えている場合が多く、また、本剤は、副腎皮質ホルモンを含有する外用剤であるため、患部が広範囲な場合、全身的副作用（感染症に対する感受性増加、高血糖、白内障など）をひき起こすことがあるので、本剤を使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談する必要があります。

長期・大量投与及び密封法（ODT）により発育障害を来すという報告があるため、本剤を使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談する必要があります。

本剤の使用により、人によってはこれらの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には使用を中止し、医師、薬剤師又は登録販売者に相談していただくための注意です。

5～6日間使用しても症状がよくならない場合は、他に原因があることも考えられます。症状がよくならないまま使用を続けると悪化することも考えられるため、医師、薬剤師又は登録販売者に相談していただくための注意です。

共通事項解説〔7〕参照

共通事項解説〔6〕参照

本剤は、副腎皮質ホルモンを含有する外用剤であるため、患部をラップフィルム等の通気性の悪いものでおおうと、薬剤の吸収が促進され思わぬ副作用を起こす可能性があります。医療用テラ・コートリル軟膏の使用上の注意にもODT（密封法）についての注意があります。

【使用上の注意】

【解 説】

[共通事項解説はこちら](#)

**保管及び取扱い上の注意**

- (1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に密栓して保管してください。
- (2)小児の手の届かない所に保管してください。
- (3)他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4)使用期限(外箱及びチューブに記載)をすぎた製品は使用しないでください。
- (5)本剤は黄色の軟膏ですので、衣服への付着に注意してください。

共通事項解説〔9〕参照

共通事項解説〔10〕参照

共通事項解説〔11〕参照

共通事項解説〔14〕参照